

## 飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

### 第45回 のん兵衛親父の懺悔<sup>ざんげ</sup> ～ 機関誌「ありがとう」より

若いお父さん、お母さんに「子育てを支援しよう」と活動を行っているグループがある。埼玉県熊谷市を拠点に、いずれNPOを目指しつつがんばっている、「ホップ・ステップ・ジャンプ」というグループで、その主要メンバーは女性で占められている。

この団体が年2回発行する機関誌「ありがとう」の第2号がもうじき、発行される。この小冊子<sup>しょうさつし</sup>は、子育てで悩んだこと、逆に、嬉しかった、感動した等、沢山の経験<sup>たくさん</sup>をポエム調にまとめ自由に投稿しあい、貴重な情報源とし、あるいは、お互いの励みにしていく趣旨で発行されている。

今回の冊子の中で、とても興味深い文章が載っていた。その全文を「コラム」の中で紹介したい。何か、いや、実にと言うべきか、「我もまた...」の思いである。

以下、全文(まま)...(注:現時点ではまだ冊子は発行されておらず、校正段階である)

...

全ての価値観を「仕事」におき、殆ど家では夕飯は食わず、家族団欒などもってのほか、「ファミリーパパ」とは無縁の世界で生きてきた親父。

そう、彼がまだ小学生の高学年。間違っ<sup>ちが</sup>って早く帰宅してしまった小生に向かい...

「おとー、おめでとう」と大きな一升瓶を持ってきた。「あれっ、今日は何の日...」自分の誕生日すら覚えていない、仕事人間の「のん兵衛親父」。

「生意気に、一升瓶なんぞ持って。子供は酒を買ってはだめだ!」なんて言ってしまったもんだから、そそくさと、子供部屋に消えてしまった長男坊。ただ、ひたすら照れ屋で、やっぱり素直でない親父は、今でも後悔している。

幾らもない小遣いを貯め、漫画「美味しんぼ」で紹介された有名な酒屋へ、幻の名酒を求め、隣町まで電車で行った。小さな体で、大きな一升瓶を2本、汗だくだくになっ<sup>な</sup>って帰ってきた...後になっ<sup>のち</sup>て、妻から聞いた。

「うれしかった。ありがとう!!」

本音で、本心で子供に感謝した。

でも、たったこれだけの言葉を...、もう、何年たったのだろうか、未だに言っ<sup>い</sup>てあげていない、仕事一筋の「のん兵衛」親父。この誌上のお陰で、親父の告白ができた。懺悔<sup>ざんげ</sup>ができた。そんな思いで今、改めて「ありがとう!!!」

熊谷市 照れ屋ののん兵衛親父(52歳)